

竹中大工道具館 平成29年度「技と心」講演会

職人と語る 瓦屋根のはなし

2017年11月5日(日) 14:00~16:30 (13:00開場)

ラッセホール大会場

講師 | 鈴木嘉吉(元奈良文化財研究所所長)、山本清一(山本瓦工業株式会社会長)

司会 | 大脇潔(元近畿大学文芸学部文化学科教授)

定員 | 当日先着200名(無料・申込不要)

TAKENAKA
CARPENTRY
TOOLS
MUSEUM



竹中大工道具館

東大寺大仏殿昭和修理(山本瓦工業株式会社提供)

竹中大工道具館平成29年度「技と心」講演会

職人と語る 瓦屋根のはなし

古建築の修復や復元・研究の第一人者・鈴木嘉吉氏と14歳で瓦葺職人の父に弟子入りし、瓦一筋70年の瓦大工・山本清一氏をお迎えし、古代建築と古代瓦の魅力についてお話を伺います。古建築と瓦屋根の関係、古代瓦の製作と葺き方へのこだわり、そして技術の伝承について、工事現場でのエピソードも交えながら、語っていただきます。半世紀に渡り第一線で活躍していらっしゃる大ベテランのお二人だからこそ聞ける貴重なお話です。ぜひ会場に足を運んでください。



1 唐招提寺鷲尾解体 右が山本清一氏 2001年 2 東大寺大仏殿昭和の大修理 大棟の原寸図を描く山本清一氏 1977年

講師プロフィール

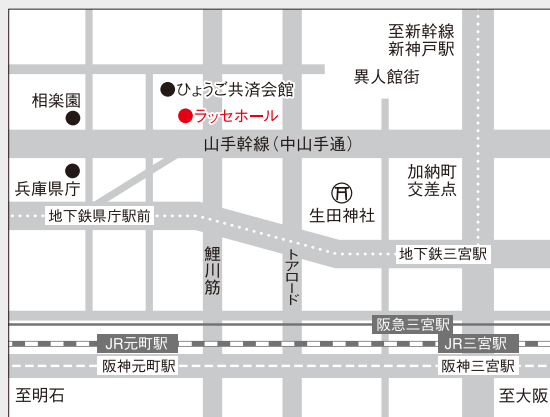
鈴木嘉吉 (すぎきかきち)

1928年東京生まれ。東京大学工学部建築学科卒業。古代木造建築研究の第一人者。薬師寺伽藍、平城宮跡の朱雀門や大極殿など古代建築の復元に携わる。現在、東大寺の東塔跡発掘調査団の団長、薬師寺東塔修理保存事業専門委員会委員長。著書に『古代寺院僧房の研究』、『東大寺南大門(不滅の建築)』、『平等院鳳凰堂(不滅の建築)』、『長弓寺本堂(不滅の建築)』ほか。



山本清一 (やまもときよかず)

1932年奈良県生まれ。14歳で瓦葺職人の父に弟子入り。その後、井上新太郎のもとで文化財の仕事に入る。主な仕事は、法隆寺金堂、松本城、姫路城、東大寺大仏殿、薬師寺伽藍、唐招提寺金堂、平城宮跡の朱雀門や大極殿など多数。著書に『めざすは飛鳥の千年瓦』。選定保存技術保持者。黄綬褒章受章。旭日双光章受章。日本伝統瓦技術保存会会長。



[アクセス]

- ◎神戸市営地下鉄「県庁前駅」下車、徒歩5分
- ◎JR・阪神「元町駅」下車、徒歩8分
- ◎JR・阪急・阪神・神戸市営地下鉄「三宮駅」下車、徒歩15分

会場
お問合せ

ラッセホール

神戸市中央区中山手通4-10-8 TEL:078-291-1117

司会プロフィール

大脇潔 (おおわきよし)

1947年名古屋生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部考古第二調査室長歴任。元近畿大学文芸学部教授。著書に「丸瓦の製作技術」、「蘇我氏の氏寺からみたその本拠」、「飛鳥の寺」、「日本の美術1 (No.392) 鷲尾」ほか。



竹中大工道具館
展覧会



古代瓦を葺く
展覧会
のご案内

- 会期 2017年10月14日[土]~12月3日[日]
- 会場 竹中大工道具館1Fホール
- 開館時間 9:30~16:30(入場は16:00まで)
- 入館料 一般500円、大生300円、中学生以下無料、65歳以上の方200円※常設展観覧料を含む

元興寺極楽堂と禅室の屋根には、1400年の風雪に耐えて今なお現役で建物を守り続けている飛鳥時代の瓦があります。土を練って焼き上げるだけで、千年も屋根の葺材として使うことができるのです。本展ではそうした長寿命の古代瓦にスポットをあて、瓦のつくり方、葺き方について、建築という切り口から瓦を読み解いていきます。



竹中大工道具館

〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1
TEL)078-242-0216 FAX)078-241-4713
http://www.dougukan.jp/

[アクセス]

山陽新幹線「新神戸駅」中央改札口より徒歩約3分
神戸市営地下鉄「新神戸駅」北出口1または北出口2より徒歩約3分
神戸市バス2系統・18系統「熊内6丁目」下車徒歩約2分